

目次

日本版への序文	1
序文	5
はしがき	10
第1部 政策	
1 国営科学における革命	
揺籃期の科学と揺籃期の政府	19
行政における科学	21
国防と恐慌	23
国営科学における革命、第二次大戦	25
地についた革命、戦後	28
研究協力、委託契約と助成金	32
2 産業と研究	
企業による研究の生長	37
企業研究の若干の特質	39
企業研究と軍部	42
政府と企業の新しい関係	48

	科学研究と軍事上の必要	53
	研究開発の予算措置	57
	研究開発と経済、特許問題	59
	3 大学と政府	
	政府と大学研究	62
	忠誠・機密保持の要請	64
	難かしい間接費の問題	66
	設備投資の財政	70
	スプーティングと人材養成問題	72
	高等教育と政府の政策	80
	4 科学政策の形成	
	科学と大統領	86
	議会と行政機構再編成、科学省の提案	90
	政策組織に関する若干の継続せる問題	94
	第2部 政治	
	5 軍部と科学者	
	過去における科学者と戦争	103
	両大戦間、「美しき年々」	109
	原子科学者と爆弾	112
	政府と原子研究	114
	爆弾の使用、最初の懸念	119
	ドイツ物理学者の奇妙なケース	123
	6 決定の政治	
	復興と反響	130
	議会陳情活動家としての科学者	131
	戦略家としての科学者	138
	責任の型	147
	7 科学における機密	
	戦時基準	151
	機密と冷戦、議会	153
	官僚側の干渉	156
	マッカーシーと通信兵団の科学者	158
	スパイ活動のケース	159
	科学における機密、原因と効果	162
	安全と危険	165

8 孤立と責任

オッペンハイマー博士の公判

死の灰と核実験、AECとその批判者

ミサイルと宇宙空間、官僚の政治

P S A C、科学者のための政策発言

結 論

結論 政策と政治

公と私、協力の外交

専門家としての責任、科学者の体験

公共的理解の必要

169

180

190

197

205

208

212

216

訳者あとがき

注

索引

218

232